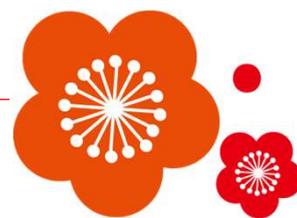


新年のご挨拶 2025年の医療界の問題

理事長 小松 満



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様健やかに新春をお迎えのことと存じます。

昨年は元旦に能登半島をマグニチュード7.6の大きな地震が襲い多大な被害をもたらしました。いまだ復興途中です。できるだけ早期に以前のような日常が取り戻せることを願っています。

一方2020年から続いた新型コロナウイルス感染症はひとまず落ちつき、昨年5月には5類感染症に分類されインフルエンザと同等の扱いになりました。

コロナワクチンの接種も有料になり、おそらく接種する人は減るだろうと思っていましたがやはり高齢者の定期接種率も減少しているようです。今のところコロナの大きな感染は広がってないようですがまだまだ油断はできません。コロナの感染が広がらないことを願っています。

さて、今年の医療界の問題は、昨年12月2日から紙の健康保険証が廃止されマイナ保険証に移行したことです。

国はマイナ保険証の普及を推進していますがマイナ保険証の利用はまだ進んでいません。マイナ保険証を持たない人には資格確認書が配布されるので従来通り保険診療は受けられます。マイナ保険証を強かに推し進めたときに、他人の個人情報に紐づけられるトラブルが発生したことが不安をあおっているようです。原因はデータ入力を誤ったことです。あってはならないことですが人がやる限り間違いを全くなくすることは出来ないと思っています。

50年ほど前、国はマイナンバー制度と同様に個人の情報を一元的に管理することで効率化を図る目的の制度を制定しようとした。マスコミや一部の国民が個人情報の保護を前面に出し国民総背番号制と反対して実現できませんでした。以来現在も反対し続けています。これが日本のデジタル化が遅れている大きな原因となりました。

いずれにしても医療情報の共有による医療の効率化のためにはデジタル化は避けて通れません。7700万人がマイナ保健証の登録を済ませています。利用率は10月時点で16%未満です。マスコミはいたずらに国民の不安をあおることをやめて、国民のためになる前向きな意見を発して欲しいと思います。

また、この数年医薬品の不足に悩まされています。信じられないかもしれませんが麻酔薬や抗生物質をはじめ解熱鎮痛剤などが手に入らなくなっています。2024年10月現在、1万6700品目のうち19%が出荷制限や停止になっています。そのうちジェネリックが6割を占めています。患者さんが必要な治療を受けられなくなっています。

これは医療費削減のために強引にジェネリック医薬品の使用を進めたことが大きな原因です。ジェネリック医薬品のメーカーは弱小な企業が多く、品質の不正が発覚して業務停止になったり、利益が出ないため生産を停止しています。

日本製薬団体連合会は、ジェネリック医薬品を扱う全172社が実施した製造実態に関する自主点検の結果、8734品目中、約4割の3796品目が製造販売承認書と異なる製造があったと明らかにしました。品質や安全性に影響はないとのことですが大きな問題です。



茨城県は、12月2日から緊急性のない救急搬送患者から「選定療養費」の徴収を開始しました。以前から救急車の利用については緊急性が認められない患者さんの利用が多いことが問題視されていました。昨年1年間の救急搬送要請が14万件を超え、そのうち軽症者が半数を占めたようです。このような事態は、緊急性の高い患者さんに必要な医療を提供できない状態をつくりだします。

対象となるのは県内22病院で、近隣ではひたちなか総合病院、水戸協同病院、水戸赤十字病院、水戸済生会病院、水戸医療センター、茨城東病院です。

患者の負担額は病院によって異なりますが18病院では7700円とのことでした。

救急車を呼ぶかどうか迷ったときには茨城県救急電話相談に相談してください。

電話番号は おとな（15歳以上）は #7119、子ども（15歳未満）は #8000です。



第17回

日仏整形外科合同会議の参加報告

ランス (Reims) 学会報告

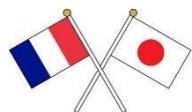
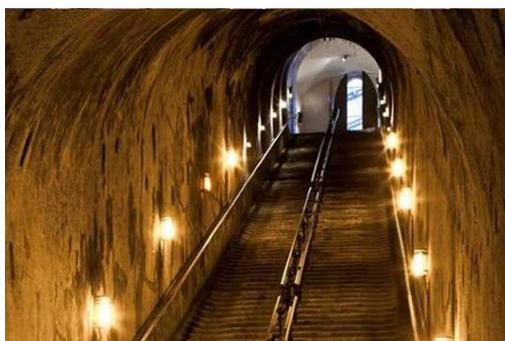


2024年6月13-15日に、4年に一度フランスで開催される日仏整形外科合同会議（第17回）での発表の為にランスに行って来ました。ランスはフランス北東部のシャンパーニュ地方の中心都市で、簡単に言えばシャンパンの街ですが、歴代のフランス国王（フランス革命以来、現在国王はいません）の戴冠式がランスのノートルダム大聖堂で行われたほどの歴史的にも有名な街です。サッカー好きの人なら日本代表FWの伊東純也選手、中村敬斗選手の活躍で知られているスタッド・ランスというフランス1部リーグのチームがあります。

今回の会場は、著名なシャンパン製造会社（シャンパンメゾン）のひとつであるLe Domaine Pommery（ポメリー）の中で準備されました（右写真）。



初日の学会発表終了後、会場の地下にあるカーヴと呼ばれる地下貯蔵庫の見学ツアーがあり、長い階段を降りて行きました。カーヴに着くと、スケールの大きさ、美しさと歴史の重みに驚きました（下写真）。



副院長
星忠行

長い階段を元気に降りた分、そこを必死に登って、やっと地上にたどり着いた所には、多数の丸く並べられたシャンパングラスが私たちを迎えてくれました（右写真）。



そこでは、膝蓋骨の高さの計測値で有名なLyonのCaton先生とお話できました（右写真）。



夜にはやはりメゾンの地下にある部屋で100人以上の参加者でのオフィシャルな晩餐会が催されました（右下写真）。

そこでは多くの日本から来た整形外科医、特に日本整形外科学会理事長の中島康晴九州大学整形外科教授を囲んで楽しく過ごせました（下写真）。私はシャンパンは何か特別な時に乾杯する飲み物と思っていましたが、ランスにいた3日間はほとんど夜はシャンパンのみで赤ワイン、白ワインも飲んだ記憶がありませんでした。受け売りのプチ知識ですが、シャンパンはスパークリングワインの一種ですが、シャンパンと名乗れるのはシャンパーニュ地方で厳格なルールのもと造られものだけのようです。



今回完全な一人旅で、プチトラブルはありましたが、小松整形病院旅行のパリでのスリの経験を超えるものではありませんでした。また、海外でもスマホ、ノートPCなどで当たり前に情報が得られる時代ですが、USB Type-Cが主流の現在、電源確保にアドバイス、ご協力をいただいた北澤事務長には深く感謝します。

次回フランス開催は2028年ですが、今後も診療、手術を続けながら、何か演題を持って、出席できればと思っています。



ロボットスーツHAL 導入します

理学療法士 大瀧 卓

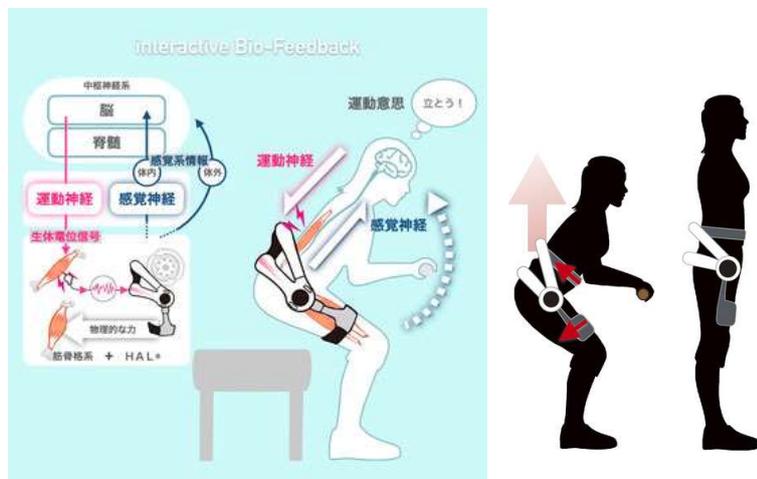
ロボットスーツという名の通り全身に纏うタイプもありますが今回当院で導入することになったのはHAL®腰タイプです。

私たちは体を動かす際に筋肉を動かしますが、その際に脳からの信号を神経が伝達します。HALはこの電気信号を読み取り、筋肉の動きをモーターで補助します。

腰タイプのHALでは股関節の動きと骨盤の動きを補助します。腰に着用した状態でお辞儀をしたり椅子から立ち上がったりと、自然と理想的な姿勢で動けるようにアシストしてくれます。この状態で立ち上がり動作を繰り返し行くと体の正しい動かし方や筋肉の使い方が身について、外した後も正しく動こうと体が頑張ってくれるようになります。

実際に数名の方に試してもらったところ「立ち上がる時に力を入れる場所が変わった」「腰痛が軽くなった」「立っている姿勢がよくなった」「歩きやすくなった」という感想を頂きました。

リハビリ室での運動療法の一環で使用しています。「立ち上がるのが大変だ」「立ち上がると腰が痛い」「歩くと腰が曲がってしまう」「歩いていると腰が痛くなってくる」といった場合、原因によってはHALでの運動療法が効果的かもしれません。診察の際に主治医にご相談ください。



— HALでできること —

- ◆ 正しい動作を体感することで体の動かし方が正確になる
- ◆ 体幹・下肢の筋力をしっかり使えるようになる
- ◆ 立ち姿や歩く姿勢が良くなる
- ◆ 立ち上がり直後の腰痛や歩いている時の腰痛が改善する
- ◆ 手を使わずに立ち上がれるようになる

— 適応の目安 —

体重40~80kg
伸長140~180cm
腹囲120cm以下
腰幅 30~36cm

重い腰痛や著しい関節障害がない方